




# 事業報告書

## 令和5年度防災講座

「災害はやって来る！ ～知っておきたいイマドキ防災～」

<p>令和5年度防災講座「災害はやって来る！ ～知っておきたいイマドキ防災～」  <b>第1部：海に囲まれた沖縄、備えるべき地震・津波のリスクとは!?</b>  <b>第2部：“ジェンダー×防災”こそが沖縄を救う!?</b></p>	
日時	令和6年3月6日（水）13:30～16:00
目的	<p>海に囲まれた沖縄県は周辺地域の地震はもちろん、太平洋を隔てた地域の天災でも津波の影響を受けることから、「自らの判断で、自分の命を守る行動」をとれるよう、地震や津波についての正しい知識と避難行動の方法を身につけておくことが必要である。一方で、女性と男性が災害から受ける影響の違いなどに十分配慮された男女共同参画の視点で対応が行われることが、防災や減災、災害に強い社会の実現にとって必須である。</p> <p>今回の講座では、沖縄における地震・津波について及び男女共同参画視点の防災の概略を学ぶことで、自分や周囲の人を守る防災意識を高めることを目指す。（第6次沖縄県男女共同参画計画 DEIGO プラン 3-1-36）</p>
対象	関心のある方（性別・年齢問わず）
主催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
講師	<p>第1部：石川 徹氏（沖縄気象台 地震火山課 津波防災係長）                  第2部：稲垣 暁氏（災害ソーシャルワーカー（社会福祉士・防災士））</p>
開催場所	沖縄県男女共同参画センター ているる3F 研修室1・2
受講者数	36名（定員：30名）
講座内容 (概要)	<p>講座は第1部、第2部の2部構成で開催されました。また、会場後方では国・自治体などによる男女共同参画視点の防災への施策や取り組みをパネル形式で紹介すると共に、他県の男女共同参画センターが作成した男女共同参画視点の防災に関するリーフレットを展示し、講話と併せて多様な視点で防災について考える機会となりました。</p> <p><b>第1部：海に囲まれた沖縄、備えるべき地震・津波のリスクとは!?</b>  <b>石川 徹氏（沖縄気象台 地震火山課 津波防災係長）</b></p> <p>最初に講師は令和6年能登半島地震の概要及び特徴を解説し、日本周辺の地震の発生状況及び2023年に沖縄でも震度3以上の揺れを9回観測していること等を報告。</p> <p>続いて、日本列島周辺では、複数の岩盤（プレート）がぶつかりあってひずみが蓄えられるが、ひずみは陸域の浅いところにも蓄えられており、多くの「陸域の浅い地震」が発生していること、地震により岩盤の一つの面に相対的なずれが認められる時、それは「断層」となり、この「断層」にひずみが蓄積することで再度地震が発生する。日本の領域には、将来も活動することが推定される活断層が約2000あり、「宮古島断層帯」はその中でも影響度が高いと評価される100以上の「主要活断層」として評価されていることなどを解説した。</p> <p>最後に講師は、日本とその周辺で発生した地震によってその場所が震度6以上のゆれに見舞われる確率を示した地図を用いて、沖縄においても地震・津波のリスクは高く、次に来る地震に備えてリスクヘッジをしなければいけないと警鐘を鳴らした。</p> <p><b>第2部：“ジェンダー×防災”こそが沖縄を救う!?</b></p> <p>自身も阪神淡路大震災で被災後、避難所や仮設住宅に通い続けている講師は実体験をふまえて「災害を受けたときには性差が大きな問題となり、特に女性が不利益な状況になることが多い」として話しはじめた。</p> <p>●<b>災害発生との性差の現実</b></p> <p>東日本大震災と阪神淡路大震災の「男女別連例別死亡者数」で女性がより多く亡くなっているが、賃金がより低いことで老朽住宅に住んでいる、嫁という立場で姑などを置いて逃げられない、台所にいる時間が長い、子どもの送迎をしている、妊婦であるなどの社会的属性や旧慣、カテゴリーなどによることが想像される。また、特定の職業・任務によってもリスクは高くなる。</p> <p>●<b>避難生活と性差による「新たな災害弱者」</b></p> <p>阪神淡路大震災から約30年も経った今でも、避難支援や避難所の仕組みには古典的課題が残り続けており、プライバシー、健康・衛生環境、母子・妊婦、性的役割の強化、性的暴力といった面で、女性やLGBTに不利益が生じている。こうしたことは避難所リーダーや公的機関担当者に旧時代の価値観が強い男性がなった場合に起こりがちであり、女性の切実な願いが「わがまま」として片づけられたり、避難所の用務を女性が担わざるを得ない状況になるなど性差が新たな災害弱者を生み、二次被害が起きる結果となりかねない。また、就業上でも女性是不利益を受けやすい。</p> <p>●<b>性差で苦しめない避難生活/受援/生活再建に向けた平時からの取り組み</b></p> <p>トイレ、健康維持、睡眠確保といった衛生/健康管理の備えを強化し、ストレス対応としてビタミンCを備蓄するなど「自助」「共助」として避難生活における不利益を予防することが重要である。そして自治体に明白な災害課題に対する具体的な対策を立てさせるなど「公助」における不適切を変えていくこと、また、多様な居場所の必要性を訴えることも必要である。</p> <p>最後に講師は、沖縄に住む我々は本土の災害対応をまる飲みするのではなく、沖縄のインフォーマル（伝統的）な「地域ケアシステム」「親族ケアシステム」を再評価し、性差を超えて維持していくことが沖縄を救うと結んだ。</p>
参加者の声	<p>（自由記載欄より抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄も地震・津波の危険性が高い地域である事がわかった。</li> <li>・改めて日本は地震大国であることや、国外で起こった地震に対しても津波に対する警戒が必要なことがわかった。</li> <li>・災害発生から日常に至るまでの間に、女性にはたくさんの課題があることがわかった。業務に活かしていきたい。</li> <li>・災害がおきたときに自分の命、家族の命、どちらも守れるように日頃から家族と意見交換をしていきたい。</li> <li>・ジェンダーの視点から防災について考えるというのは、必要で大切なテーマであると思って、まず知ることができる機会になって良かった。</li> </ul>
講座写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>石川 徹氏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>稲垣 暁氏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講座の様様</p> </div> </div>